

主日礼拝

2025年7月20日 10時20分～

司式：

奏楽：

《神の招き》

前 奏 『備えて祈れ（讃美歌 21－440）』 J. G. ヴァルター
招 詞 イザヤ書56章7節
賛 美 歌 教会福音讃美歌29

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 歴代誌下6章12～21節 (旧約663頁)
テモテへの手紙一2章1～8節 (新約376頁)

こども説教
交読詩編 詩編143編1～6節 (167頁)
賛 美 歌 440

説 教 「祈りの喜び」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 495

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金 献金当番
祈 禱
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 I－541
祝 福
報 告
後 奏

礼拝当番： (役員：) 献金当番：
音響： 映像：

「祈りの喜び」

『歴代誌下』では、神殿建設を終えたソロモンが、イスラエルの全会衆を代表して祈りをささげます。イスラエルの神こそ唯一の神であることを告白しつつ、父ダビデに約束されたことを思い起こします。神殿建設も神がダビデに約束されたとおりに実現しました。律法によって神に従い続けるなら、ダビデの子孫は王座を守り続けることができ、イスラエルの平和は守られるのです。これらのことも、神がダビデに約束してくださったことであり、そのことも約束されたとおりになるのだと信じて祈るのです。ソロモンは、建設した神殿を用いて神に祈り、仕える者として歩んでいくことを表明します。神殿がどんなに壮麗であっても、偉大な神をここに閉じ込めることなどできません。しかし真心をもって神に祈るときには、神がこの神殿でソロモンの祈りを聞いてくださるのだと信じているのです。

『テモテへの手紙一』は、紀元1世紀末頃に記されました。不法、不従順、不敬虔、俗悪、殺人、姦淫、男色、誘拐、嘘、偽証などの罪が横行する世にあって、キリスト者も罪の中に呑み込まれてしまいそうになっていたのです。そこで第一にすべきことを勧めます。それは「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人のために献げなさい」とのことです。祈りは信仰を保たせ、世へ働きかける力ともなります。自分のためばかり祈るのではなく、他者の為に。親しい人の為だけでなく、すべての人のために祈ることです。神は唯一の神であり、すべての人のために主イエスを世に送られたのです。私たちも祈りの力を信じ、すべての人のために祈りましょう。